

# 7月みんなみずくだより



林田小学校 R2. 7. 1 発行

毎週水曜日、8時30分から45分の15分間は「みんなみずく」タイム。1年生から3年生までの皆さんが楽しみにしている時間です。今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、読み聞かせ4月に1回だけの活動に終わってしまい、しばらくの間お休みしていただくことになりました。そこで、今月の「みんなみずくだより」は今までに読んでいただいた本の中から、ほんの一部ですが、ご紹介したいと思います。暑い夏、体を休めてゆっくと読書をしてみてください。高学年の皆さんも読んでもらった本がたくさんあると思います。印象に残っている本がありますか？夏休み、楽しんでくださいね♪



文：ハリー・ウィッシュタイン  
絵：クリス・スー  
訳：こだま ともこ

昨年、ボランティアさんが読んでくださったことがきっかけで、ボランティアさん同士、そして職員のあいだでも大ヒットした絵本で、たくさんのクラスで読んでもらったと思います。1920年のアメリカ、料理のたびにケガをするそそっかしい奥さんを心配したアールさんは「僕が何とかしてあげなくっちゃ」と、1人でも手当てができるばんそうこうを発明し・・・そうなのです！このばんそうこうとは今では誰もが当たり前のようになっている「バンドエイド」なのです。発明から製品化、普及するまでのエピソードを楽しく描いたノンフィクション。発明したアールさんと奥さんのエピソードが本当たりののですから、なんて素敵はお話でしょう～

3年生さんがシーンと聞き入った絵本です。この絵本は作家でエッセイストで脚本家である向田邦子さんの『字のない葉書』が原作になっています。向田さんのいつもは怖いお父さんと小さな妹・和子さんの実話に基づいたエッセイを角田光代と西加奈子さんとで絵本によみがえらせました。戦争時代、お父さんは小さい妹に、「元気な時は大きな〇を書くように」と、たくさんのはがきを渡しました。お父さんの言葉通りはじめは大きな〇がついていたのはがきは、だんだんと小さな〇になり、そしてとうとう×が書かれて・・・「迎えに行きましょう」とお母さん。小さな妹が帰ってきたとき、怖いお父さんが・・・思わず涙が出そうになります。戦争のあった時代、子どもも大人もこんな思いをする日々があったのです。



原作：向田 邦子  
文：角田 光代  
絵：西 加奈子





『ともだち  
ひきとりや』

作：内田麟太郎

絵：隆矢なな

このシリーズは図書  
室にありますよ！

「え～、いらぬともだちはいせんか？」って、びっくりするセリフでしょう？この本は「ともだちやシリーズ」の1冊です。今回はイノシシとイタチのお話です。お互いに大事な友だちなのに、つつい親分風を吹かせすぎるイノシシ。そこで、オオカミとキツネが「ともだちひきとりや」をかけてます。イノシシはイタチを引き取ってもらうことにしましたが、一人ぼっちの何と寂しいこと・・・みなさんも大事なお友達がいますよね？いつもそばにいてくれるので、そのお友達のことが、すごく大事な存在だということをついついわすれてしまっていないませんか？おともだちの大切さをあらためて感じることができる1冊です。「ともだちやシリーズ」は11冊あります。どの本も楽しくて、次々と読みたくなります。シリーズを制覇してみたいかがでしょう～

東日本大震災。それは平成23年3月11日のことでした。山の上に置かれた電話。誰でもが自由に使えて、今はそばにいない人と話すことができます。でも実はそれは電話線のつながっていない電話でした。岩手県大槌町に東日本大震災のあと設置された「風の電話ボックス」をモデルとした絵本です。大切な人と話をするために今日も誰かがやってきます。人はみんな、心のよりどころが欲しい、さみしい、辛いとき、そっとこの電話にささやいてほしい。思いを伝えたい・・・たとえ返事が返ってこなくても。私たちにできること、東日本大震災を忘れないでいることではないでしょうか。

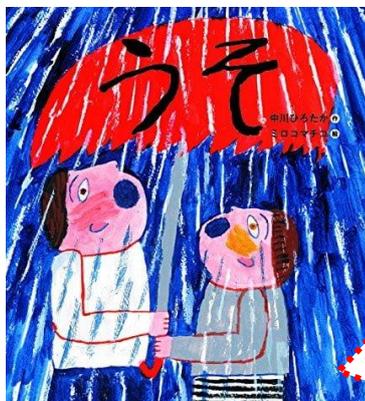


『かぜのでんわ』

作：内田麟太郎

絵：隆矢なな

この本は図書室に  
ありますよ！



『うそ』

作：中川ひろたか

絵：ミロコマチコ

この本は図書室にありますよ！

うそって何だろう？うそをつくのはよくないこと？うそにはいいうそと、悪いうそがあるの？人はなんでうそをつくだろう～自分のためにつくうそ、人を悲しませないためにつくうそ、人をだますためにつくうそ・・・高学年の皆さんもぜひ手に取って読んでみてください。お友達同士、家族同士でもこの本と一緒に読んでみてください。「うそをつく」って、だれにでも心当たりがありますよね。読めば読むほど深い本です。

